

第4学年 音楽科学習指導案

1 題材名 音楽を楽しもう

ーわたしのファランドールをつくろうー

〈使用教科書 教育芸術社4年 平成23年度版〉

2 題材の目標

- (1) まとまりや広がりのある音楽の仕組みを生かして、拍の流れにのった簡単な旋律をつくって表現することができる。
- (2) 曲想と要素のかかわりに気をつけて想像豊かに聴き、気付いたことを旋律の表現に生かすことができる。

3 題材と本時の評価規準

	音楽への関心・意欲 ・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材	旋律づくりをすることに興味をもち、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	反復・変化などの音楽の仕組みや、強弱、速さなどの要素の働きを生かして、自分の思いにあった表現を工夫している。	ド・レ・ミ・ソの4音を使ってまとまりや広がりのある旋律をつくっている。	曲想を感じ取り、情景を想像しながら聴いている。
本時			旋律が重なる工夫がわかり、旋律Aに重なる旋律Bをつくっている。	

4 題材と指導の構想

(1) 題材について

本題材は音楽づくりの学習である。今まで学習してきた「反復」「問いと答え」「変化」の音楽の仕組みと「リズム」「音の重なり」「速度」「強弱」などの要素を生かし、簡単な旋律をついたり、つくった旋律の表現を工夫したりする。

学習指導要領における関連事項は以下のとおりである。

学習指導要領

A表現

- (3) イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。」

B鑑賞

- (1) イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。」

共通事項

ア「音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。」

(ア)「音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴づけている要素」

(イ)「反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組み」

低学年の音楽づくりの学習では、簡単なリズムやふしの模倣やリズムリレーなどの音遊びを通して、児童に「反復」や「問いと答え」の仕組みを感覚的にとらえさせる。そしてこの音楽の仕組みを使って簡単な旋律をつくったりそれをつないだりする活動を積み重ねる。

中学年の音楽づくりでは、低学年での経験をふまえて、「問い」に対して今までと違った音型を加えて「答え」をつくったり、もとの音型を変化させて「反復」やまとまりをつくったりするなど、「変化」に視点を置く。

高学年では中学年の学習に加えて、音の重なりや旋律の組み合わせを縦、時間的な流れを横とし、縦と横の織りなす関係の全体を見通しながら音楽をつくっていく学習を進める。

(2) 児童について

音楽づくりにかかわる学級の児童の実態と4年生での学習経験は次のとおりである。

ピアノやエレクトーンを習っている児童は数名で、4年生の最初は楽譜を読むことを苦手に行っている児童が多かった。そこで自分が音符になって音楽室の床にビニールテープでつくった五線の上ののったり、階名唱を繰り返し練習することで、楽譜を読むことへの抵抗感を小さくしてきた。4年生の後半になると、五線を数えていくことで音符の示す階名を自分で読み取ることができるようになってきた。階名の読み取りや階名唱を通して「反復」を使う曲が多いことに気が付くことができた。

リズムづくりでは日本の民謡に合わせ、つくったリズムを色分けしたカードで記録し、記録したリズム譜を使って友達とリズム打ちを行った。

旋律づくりでは、あらかじめ提示されているリズムの中に3つの音から選んだ音を入れてリコーダーで演奏した。

限定された音階ではあるが旋律を自分でつくること、つくったものを楽譜に表すことは本題材で初めて取り組む。

(3) 教材について

本題材で使用する教材曲は次のとおりである。

① 「アルルの女第2組曲から ファランドール」 ビゼー作曲

「王の行進」は旋律が四分音符や二分音符で堂々と、「馬のダンス」は八分音符ではずんで演奏される。この二つの旋律が反復された後重なり、曲の盛り上がりを感じさせる。

② 「つるぎのまい」 ハチャトゥリアン作曲

木琴の固い響きで八分音符が連続し、力強さや躍動感が感じられる。

③ 「茶色のこびん」 芙蓉明子作詞 ヨセフ ウィンナー作曲 浦田健次郎編曲

主旋律・副旋律など4パートで構成された4分の4拍子の合奏曲である。A-A'-B-

B”の形式で、曲の前半と後半で16小節ずつのまとまり感がある。

教科書の主旋律パートと2番目の副旋律のパートを重ねたとき、途中で共通の音になっているところが多く、最後の小節ではどちらの旋律も四分音符のドが3つ続いて曲が終わっている。

④ 「パレードホッホー」 高木明子作詞 平吉毅州作曲

スタッカートで演奏される軽やかな旋律アとレガートで演奏される旋律イがあり、最後にその二つの旋律を重ねて歌う。アとイの旋律を重ねたとき、共通な音は最後の音ファ（ト長調主音）だけである。

また、アは八分音符を多く使った動きのあるリズム、イは四分音符、二分音符を使ったなめらかなリズムで、合わせたときに互いのリズムがぶつからないような工夫がされている。

⑤ 「ペールギュント」第一組曲から「山の魔王の宮殿にて」 グreek作曲

低音の弦楽器による主な旋律が、様々な楽器に引き継がれながら繰り返され、音量を増しながら速度も速まり追い詰められていくような緊迫感を感じ取ることができる。曲想を生み出していく旋律の動きや、速度、強弱の働きに気付かせ、自分の旋律の表現の仕方を考えさせることができる。

(4) 指導の構想

本題材では以下の①～④をふまえて授業を構想する。

① 4年生のまとめとして「わたしのフェアランドールをつくって発表しよう」というめあてを設定する。

児童は「音の重なり」の学習で、「フェアランドール」を鑑賞し、二つの旋律が反復し、その後重なることで楽曲が盛り上がる構造を聴き取った。本題材での音楽づくりの学習で同じ「フェアランドール」を使うことで、「続く感じ」「終わる感じ」に変化しながら旋律が「反復」していること、初めの旋律とは異なる新しい旋律が出現し音楽に広がりがあることなど、音楽の仕組みを無理なく取り入れ、自分の音楽をつくることができる考える。

「フェアランドール」と同じく自分たちの旋律を重ねる経験は、高学年で音楽の縦と横の関係を考えていくことへの橋渡しになると考える。

まず児童に対し、「4年生の学校生活の中から思い出ベスト3を選び、その時に感じたことや思いを音楽で表そう」と呼び掛けることによって、音楽作りへの必要感や意欲を引き出す。

次につくった旋律に「運動会フェアランドール」「児童会祭りフェアランドール」と題名を付け、児童が、その出来事について具体的に思い出して音楽づくりに取り組むことができるようにする。

4年生最後の参観日に、できた音楽を保護者に聴いてもらう発表会を設定し、旋律づくりだけでなく表現の仕方の工夫、技能向上まで児童の意欲を持続させていく。

② 図形楽譜を使い楽曲を「リズム」に着目して鑑賞する。

「馬のダンス」「つるぎのまい」の図形楽譜を提示し、八分音符のリズムが連続することで高揚感やはずんだ感じが生まれていることを確認し、旋律づくりに生かす。

③ スモールステップで旋律づくりを進める。

どの児童にも無理なく旋律づくりに取り組めるよう、スモールステップで学習を進めていく。最初は「問いと答え」のリズムづくりから始める。教師が「○○さん、遊びましょ。」と手でリズムを打ちながら呼びかける。児童に「いいよ。なにをする。」「だめよ。あした。」など8拍2小節のリズムで答えさせる。

続いてつくったリズムに音階を当てはめ、旋律にする。音階は呼びかけやすいよう日本のわらべうたに使われるミ・ソ・ラの3音に限定し、その後ハ長調のド・レ・ミ・ソの4音に音域を広げていく。

ねらいとする旋律づくりでは、まず選んだ思い出に対する期待や喜びを八分音符中心のリズムで表す旋律Aをつくらせる。児童の実態を考えて前半2小節は共通とし、後半の2小節を各自でつくることにする。

「ファラドール」のように旋律AとBがうまく重なるためには工夫があることを気付かせ、見付けた工夫を使ってBの旋律をつくらせる。児童の実態から旋律Bも前半部分は共通にし、後半の2小節を各自でつくることにする。

曲のまとまりをつくっていく段階では、終わりの部分を変えることによって旋律に続く感じ終わる感じが生まれることに気付かせ、自分の旋律でもA→A'のまとまりをつくらせる。

こうして、できあがった旋律A→A'→B→(B')→ABの重なりとつないでいくことで、16小節の曲を完成させることにする。

④ 難しさを感じさせない記録の仕方を工夫する。

つくった旋律を後に残し、他の人も演奏できるようにするためには楽譜などに記録する必要がある。リズムづくりの学習から使っている正方形のカードを引き続き使用する。カードの組み合わせで、児童はつくった4小節のリズムを自分で記録することができている。今回はリズムだけでなく旋律になり音の高さがあるので、このカードの□の中にカタカナで階名を書かせることにする。

慣れているリズムカードを使うことで、どの児童も旋律を記録することにそれほど難しさを感じることなく、旋律をつくる方に集中することができると思う。

5 題材の指導計画（9時間 本時6時間目）

次	時	学習のねらい(○)と主な学習内容(・)	評価				
			関	創	技	鑑	評価規準
1	1	○即興演奏に親しむ。 ・4/4拍子2小節ー2小節のリズムの掛け合いを歌う。 ・ミソラの3音で2小節の旋律をつくり、ワークシートに階名で記録する。	○		○		・リズムの即興演奏に楽しく取り組んでいる。 ・つくった旋律を記録している。
	2	○ドレミソの4音を使って2小節の旋律づくりをする。 ・問いと答えの言葉のリズムから旋律をつくる。			○		・言葉をもとにしたリズムで4音を使って2小節の旋律をつくっている。

2	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたしの〇〇ファランドール」を作 って発表することを知り、思い出ベス トの中から一つを選ぶ。 ○リズムと曲想の関係をとらえる。 ・「ファランドール・馬のダンス」「つ るぎのまい」を絵譜を見ながら聴き、 八分音符と曲想との関係をとらえる。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしの〇〇ファランド ール」に興味をもち、思い 出を選んでいる。 ○・八分音符は気持ちが高まっ た感じの曲想につながって いることをつかみ、その曲 想を味わっている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○はずんだ感じの旋律Aをつくる。 ・出来事を思い出し、どきどきわくわく したことを八分音符のリズムと4音を 使って2小節の旋律に表す。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・八分音符のリズムと4音を 使ってはずんだ感じの2小 節の旋律をつくっている。
	3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律Aに重なる旋律Bをつくる。 ・旋律が重なるコツが分かる。 ・見つけたコツを使って重なる旋律Bを つくる。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の最後の音に着目した り途中の重なりを意識した りして旋律Bをつくってい る。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○「反復」を使って8小節のまとまりを をつくる。 ・「つながる感じ」「終わる感じ」をつく るための終盤の音のつなぎ方を理解す る。 ・A-A'の旋律のまとまりをつくる。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・終音の違いによって「つな がる感じ」と「終わる感じ」 になることを使ってAの最 後を工夫し、A-A'の8 小節の旋律をつくってい る。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○つくった旋律をつなげて1曲にする。 ・旋律をつなぎ、通して演奏する。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・16小節をつなげ、通して 鍵盤ハーモニカで演奏して いる。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽の要素の働きと曲想の関わりをと らえ、つくった「〇〇ファランドール」 の表現を工夫する。 ・「山の魔王の宮殿にて」を聴き、音楽 の要素の働きと曲想の関わりを感じ取 る。 ・自分たちの曲をどのように演奏するか を考え練習する。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の要素の働きと曲想の 関わりについて気付いたこ とを言葉で表現している。 ・演奏の仕方の工夫を考え、 練習している。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「〇〇ファランドール」の音楽発表会 をする。 ・互いの演奏を、よさを見付けようとし ながら聴いている。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が作った曲を聴いてそ のよさを見つけようとして いる。 ・要素を生かして思いが現れ

ことを、重なるの工夫とさせる。

これらの工夫を児童が理解しやすくするために透明OHPシートに「ファランドール」「パレードホッホー」「茶色のこびん」の旋律の最後を色分けして書いておく。「まったく異なる感じなのに重なったときぴったりするのはなぜだろう」と問いかけ、実物投影機を用いてシートを重ねて拡大してテレビに写し出し、重なるための3つの工夫を理解させる。ここでは重なる工夫を「コツ」と呼ぶ。

- ③ 二つの旋律のどの音が重なるかを確認することができるよう、ワークシートを工夫する。
児童がつくった旋律AとBのどの音とどの音が重なるかわかるよう、拍がそろったワークシートを使う。

(3) 本時の展開

学習内容・活動	主な教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点と評価
○ねらいを把握する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>今日は「ファランドール」でいうと「王の行進」にあたる新しい旋律Bをつくります。Bは、最後にAと重なってかっこよく盛り上がるのですね。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・レガートの感じの旋律だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを掲示する。 重なる旋律Bをつくろう。
○重なる旋律の工夫を見つける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>重なる旋律はどんな工夫でつくられているか見つけましょう。</p> </div> <p>(馬のダンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音符がいっぱいある。連続している。 ・はずんだ感じの八分音符だ。 <p>(王の行進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音符の数が少ない。 ・伸びている。 <p>(重ねると)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つと一緒に終わっている。 ・旋律の長さが同じ。 ・最後が同じ音だ。 ・最後の少し前にも一つだけ同じ音がある。 ・パレードホッホーでも最後は同じ音だ。 ・茶色のこびんは途中にも同じ音が出てくる。 <p>○重なる旋律Bの工夫を「コツ」としてまとめる。</p> <p>(1)音が伸びている。四分音符や二分音符を使う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファランドールの「馬のダンス」「王の行進」を一フレーズずつ聴かせ、その後合わせたものを聴く。 ・OHPシートをテレビに映す。 ・シートの二つの旋律を重ねる。 ・「パレードホッホー」「茶色のこびん」でも同様にAとイ単独で聴かせ、その後合わせたものを聴かせる。 ・それぞれのコツが出てきたときに短い文でまとめ、リズムカード上ではどうなる

<p>○「コツ」を選んで重なる旋律Bをつくる。</p>	<p>(2) 終わりの音がそろろう。同時に同じ音符で終わる。</p> <p>(3) 共通の音を使う。</p> <p>○このコツを使うと重なる旋律Bができそうですね。</p> <div data-bbox="408 450 1011 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>初めの部分は先生がつくってきました。「コツ」を使って続きの旋律Bをつくりましょう。できたらぴったりあっているかどうか、隣同士でペアになりAとBの終わりの2小節を一緒に吹いて重なっているか確かめましょう。</p> </div> <p>○先生は何番の「コツ」を使ったか分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1)だ。2個分伸びているから。 <p>○ワークシートにリズムと階名を書きましょう。手をたたいたり鍵盤ハーモニカを吹いたりしてつくりましょう。</p> <p>○2人の速さをそろえましょう。リズムカードの縦の音を合わせて鍵盤ハーモニカで吹きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コツ(1)を使う。長い音を使ってみよう。 ・コツ(2)を使う。終わりがずれると変な感じになるから。 ・コツ(3)を使う。最後だけでなく途中にもAと同じ音を入れよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人で合わせてみよう。ぴったりな感じがするよ。 	<p>かを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのコツを使うかを挙手させ、見通しをもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の旋律をつくる時、鍵盤ハーモニカで吹きながらつくらせる。 ・隣同士ペアになり重なるかどうかを一緒に吹いて確かめさせる。 <div data-bbox="1040 1189 1415 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価</p> <p>B：旋律の最後の音に着目して重なる旋律をつくることができる。</p> <p>A：Bに加えて、音を共通にする、対照的なリズムを意識するなど途中の重なりも考えて旋律をつくることができる。</p> </div>
<p>○学習のまとめをする。</p>	<div data-bbox="408 1704 1011 1839" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>できあがった旋律BがAと重なって盛り上がったところを聴かせてください。</p> </div> <p>○いい感じに重なるのは、音や拍をそろえたり、リズムの整理をしたりする「コツ」があるのですね。だんだん「ファランドール」らしくなってきました。</p> <p>次は旋律をつなぐ仕組みを勉強しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカで演奏させる。